

公益社団法人 日本コンクリート工学会 東北支部  
平成 24 年度通常総会議事及び行事次第

期日 : 平成 24 年 5 月 8 日 (火)

場所 : 仙台国際ホテル

I 総会 (15:00~15:40)

1. 開会
2. 定足数の確認
3. 支部長挨拶
4. 議長選出
5. 議事録署名人の選任
6. 議事
  - (1) 平成 23 年度事業報告 (案) 及び収支決算報告 (案) (第 1 号議案)
  - (2) 平成 24 年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案) について (第 2 号議案)
7. その他
8. 閉会

休憩 15:40~15:50

II 平成 23 年度研究委員会等の報告 (15:50~16:10)

- (1) 二種専門研究委員会「コンクリート構造物の LCC 評価研究委員会」
- (2) 東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会

III 平成 23 年度日本コンクリート工学協会東北支部表彰 (16:10~17:20)

- (1) 選考結果報告
- (2) 表彰
- (3) 講演

IV 懇親会 (17:30~19:30)

## 第1号議案 平成23年度事業報告及び収支決算報告

(自：平成23年4月1日 至：平成24年3月31日)

### 1. 会務運営

#### (1) 総会の開催

- ・平成23年 5月 23日 (月) 15:00～17:20 於：ホテルメトロポリタン仙台

#### (2) 幹事会の開催

- ・平成23年 5月 電子会議にて開催
- ・平成23年 7月 7日 (木) 13:30～15:00 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成23年 12月 8日 (木) 13:30～15:00 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成24年 3月 6日 (火) 13:30～15:00 於：(株) 復建技術コンサルタント

#### (3) 役員会の開催

- ・平成23年 7月 7日 (木) 15:00～16:30 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成23年 12月 8日 (木) 15:00～16:30 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・平成24年 3月 6日 (火) 15:00～16:30 於：(株) 復建技術コンサルタント

#### (4) 研究委員会の開催

- ・委員会は、随時電子会議で開催。

#### (5) 表彰委員会の開催

- ・平成24年 3月 6日 (火) 16:30～17:00 於：(株) 復建技術コンサルタント
- ・その他、随時電子会議で開催

#### (6) 研修委員会の開催

- ・委員会は、随時電子会議で開催

#### (7) 講習会運営委員会の開催

- ・委員会は、随時電子会議で開催

#### (8) ホームページ運用委員会

- ・委員会は、随時電子会議で開催

## 2. 委員会活動

### (1) 研究委員会

会告およびホームページにおいて、二種専門研究委員会（一般研究課題）および三種専門研究委員会（萌芽的研究課題）を公募していたが、平成 23 年度は新規の研究応募が無かった。そのため平成 23 年度は、継続課題 1 件が活動した。研究課題、委員長および活動内容は以下のとおりである。

#### ・継続課題

#### 1) 二種専門研究委員会「コンクリート構造物の LCC 評価研究委員会」

活動期間：平成 20 年 10 月～平成 22 年 9 月

委員長 岩城一郎

幹事長 皆川浩

幹事 石橋努, 子田康弘

委員 阿波稔, 阿部裕彰, 池田正行, 石山智, 大越雅城, 小山田哲也, 上原子晶久, 日下郁夫, 佐藤和徳, 新銀武, 曾田信雄, 高畑修, 千葉佳和, 徳田和哉, 内藤英樹, 西脇智哉, 三浦建彦 (平成 22 年 3 月現在)

#### ・活動内容：

本研究委員会は、平成 20 年 10 月より、東北地方において問題になっているコンクリート構造物の劣化要因に着目し、その劣化予測手法と LCC 評価技術に関する検討を行ってきた。平成 24 年 3 月に活動期間が終了したため、研究成果を報告書として取りまとめるとともに、平成 24 年 6 月 28 日宮城県講堂にて開催される講習会に向けた準備を進めている。さらに、これを皮切りに、平成 24 年度中に東北 6 県において講習会を開催する予定である。

### (2) 表彰委員会

#### 1). 支部賞募集および応募

コンクリート工学誌 12 月、1 月号の会告および支部ホームページを通して論文賞、奨励賞、作品賞、技術賞の募集を行ったところ、論文賞 4 件、奨励賞 2 件、技術賞 2 件の応募があった。

#### ・論文賞

- ①. 再生骨材 M のプレキャストコンクリート製品への利用に関する基礎的研究
- ②. ハイブリッド型繊維補強セメント系複合材料を用いた柱部材のせん断耐力と変形性能
- ③. スケーリング劣化を考慮して新しい凍結融解試験法の検討
- ④. 連結材ユニットを用いた自己修復コンクリートの RC 構造物への適用に関する実験的検討

#### ・奨励賞

- ①. コンクリートの材料分離低減によるかぶり部の耐凍結融解性改善に関する研究
- ②. ひずみ硬化セメント複合材料の引張靱性能に及ぼす試験体寸法及び固定条件の影響

#### ・技術賞

- ①. 国道 7 号摩当山トンネル（北秋田工区）工事
- ②. 東日本大震災で被災した新幹線構造物の復旧

#### 2). 審査経緯

表彰委員会の各委員個人での審査結果を参考に、3 月 6 日に表彰委員会を開催した。各賞について慎重審議を行った結果、論文賞 4 件、奨励賞 2 件、技術賞 2 件をそれぞれの賞に相応しいものと判断し、4 月 12 日開催の幹事会に提案した。幹事会での承認を得た後、これらの審査結果を役員全員にメールで報告し承認を得た。なお、作品賞は応募がなかった。

#### 3) 功労賞

功労賞については推薦が無く、今年度は対象者なしとした。

#### 4). 表彰対象とその理由

##### 【論文賞】 1

題名 「再生粗骨材 M のプレキャストコンクリート製品への利用に関する基礎的研究」

応募者 北辻政文 (宮城大学)  
遠藤孝夫 (東北学院大学)  
吉田修栄 (株式会社吉田セメント工業)  
丹野恒紀 (宮城大学)

##### 選考理由

本研究は再生骨材のうち費用対効果のもっとも優れているMランクの再生骨材をプレキャスト製品に用いることを目的に、広範な実験検討を行って基本的性状を明らかにするとともに、実際のプレキャスト製品を製造・現場施工してその実用性を検討したものである。将来的に大量発生が予想されるコンクリート廃材の有効利用の道を開くものであり、学術的かつ実用性の価値の高い論文といえる。今後実用化に向けてさらなる研究の余地はあるものの、現段階では当該分野における我が国の研究の最先端を行くものと考えられる。

以上のことから、北辻 政文氏ほか3名に、東北支部論文賞を授与する。

##### 【論文賞】 2

題名 「ハイブリッド型繊維補強セメント系複合材料を用いた柱部材のせん断耐力と変形性能」

応募者 前田 匡樹 (東北大学大学院工学研究科)  
鶴飼 和也 (東北電力株式会社 土木建築部)  
中村 匠 (戸田建設構造設計部)  
迫田 丈志 (東北大学 大学院工学研究科)

##### 選考理由

本研究は、ポリエチレン繊維と高強度鋼繊維を用いたセメント系複合材料(HFRCC)を、軸力の変動および塑性変形が大きいピロティ構造の柱部材に用いることを目的に、部材実験を行うとともに既往のデータも含めて検討し、従来のせん断設計式中の項にこの材料の高い引張強度を累加することで安全側の評価が可能であることを示したものである。これらの知見は従来耐震性が問題とされていたピロティ構造の柱の耐震性を、この材料を用いることで改善できる可能性を示しており、構造形式の選択の幅を広げたものといえる。

以上のことから、前田 匡樹氏ほか3名に度東北支部論文賞を授与する。

##### 【論文賞】 3

題名 「スケーリング劣化を考慮した新しい凍結融解試験法の検討」

応募者 小山田 哲也 (岩手大学工学部 社会環境工学科)  
羽原 俊祐 (岩手大学工学部 社会環境工学科)  
高橋 拓真 (株式会社 間組 九州支店工事部)  
高橋 俊介 (岩手大学工学部 建設環境工学科)

##### 選考理由

本研究は、7mmの立方体に切断した小型の供試体を用いて簡便かつ短期間にモルタルのスケーリング抵抗性を評価できる試験法を提案するものである。モルタル部分のスケーリング抵抗性しか評価できない等、今後さらに検討を進めていくべき課題もあるものの、我が国ではまだ規格化されていないスケーリング評価に関する試験法を提案していること、スケーリングメカニズムの解明にも利用できる可能性のあること、さらにはモルタルやコンクリートのスケーリング抵抗性の一時的傾向を探るための試験法として利用できること、など実用上の価値も高いものと考えられる。

以上のことから、小山田 哲也氏ほか3名に東北支部論文賞を授与する。

#### 【論文賞】 4

題名 「連結材ユニットを用いた自己修復コンクリートの RC 構造物への適用に関する実験的検討」

応募者 西脇 智哉（東北大学大学院工学研究科）

熊田 廣樹（日本大学大学院工学研究科）

大平 旭洋（日本大学大学院工学研究科）

Sanjay PAREEK（日本大学大学院工学研究科）

#### 選考理由

本研究は発熱デバイスと補修剤供給パイプからなるユニットをコンクリート構造物表面部に設置し、ひび割れ発生により抵抗性が高くなったデバイスに通電することで保護膜を融解し、ひび割れ部分のみに補修剤を注入するものである。実験により、提案した補修方法の有効性、さらには耐力的な修復効果を確認している。自己修復コンクリートの開発研究は世界各国の最先端技術として精力的に進められているなかで、本論文に示されたアイデアは極めて独創性、斬新性が高く我が国を代表する技術として成功する可能性を秘めたものと思われる。

以上のことから、西脇 智哉氏ほか 3 名に東北支部論文賞を授与する。

#### 【奨励賞】 1

題名 「コンクリートの材料分離低減によるかぶり部の耐凍害性改善に関する研究」

応募者 齋藤 憲寿（秋田大学大学院工学資源学研究科）

#### 選考理由

実際の構造物における耐久性を確保するためにはかぶり部分のコンクリートの品質は極めて重要であるとの観点から、鉄筋によるスクリーニングを受けたコンクリートの耐凍害性を検討したものであり、配合中の再骨材率を増加することで、かぶり部の耐凍害性が向上することを実験的に示したものである。本研究で得られた知見を実施に適用するにはさらなる検討が必要と思われるが、これまで施工度が耐久性に及ぼす影響を検討した研究は少ないことなど、研究の意義と手法に独創性が見られるものであり、今後の研究の進展を期待することができる。

以上のことから、齋藤 憲寿氏に東北支部奨励賞を授与する。

#### 【奨励賞】 2

題名 「ひずみ硬化セメント複合材料の引張靱性能へ及ぼす試験体寸法および固定条件の影響」

応募者 菊田 貴恒（東北大学大学院工学研究科）

#### 選考理由

本研究は、2 種類の PVA 繊維を用いた繊維補強モルタルを対象に、ひび割れ特性や靱性を評価する試験方法に関して実験研究を行ったものであり、従来から引張特性などへの影響が大きいとされていた試験体形状や試験体固定条件の違いは顕著ではなく、むしろ材料特性のばらつきが大きく影響することを明らかにした。これらの知見はあたらしい材料の特性を適切に評価する試験法を確立する上で極めて有用なものであり、さらに異なる繊維を対象にした試験を進めることで、繊維補強モルタル全般についての適切な試験方法の提案につながることを期待できる。

以上のことから、菊田 貴恒氏に東北支部奨励賞を授与する。

### 【技術賞】 1

題 名 「国道7号摩当山トンネル（北秋田工区）工事」

応募者 国土交通省 東北地方整備局  
清水建設株式会社東北支店

選考理由

本件は、積雪寒冷地に位置する摩当山トンネルの覆工コンクリート工事において品質・耐久性向上に向け、配合的にはひび割れ対策としてのガラス繊維の利用、施工的には単位水量測定による品質管理、養生システムの開発など様々な取り組みを行ったものである。さらに中流動コンクリートを試験的に施工し、バイブレータの必要配置間隔、側圧係数の把握などの技術的知見を得ている。これらの成果は今後のトンネル覆工工事に資するところも大きいものと思えられる。

以上のことから、本応募グループに東北支部技術賞を授与する。

### 【技術賞】 2

題 名 「東日本大震災で被災した新幹線構造物の復旧」

応募者 東日本旅客鉄道株式会社 東北工事事務所

選考理由

本工事は、東日本大震災により甚大な被害を受けた 500km にわたる新幹線構造物を、これまで蓄積された高い技術力により 49 日間という短期間で復旧させたものである。特に、これまでの地震災害では問題とならなかった電化柱について、損傷のタイプにより分類分けをするとともに、タイプに応じて適切な対策により復旧したことは、今後の鉄道構造物の災害復旧や耐震設計思想に多くの知見を与えるものと考えられる。

以上のことから、本応募グループに東北支部技術賞を授与する。

(3) 研修委員会

第7回『コンクリート診断士の技術研鑽のための勉強会』の企画立案及び開催を下記の通り実施した。

項目	説明
開催日時	平成23年10月14日(金) 晴～曇り 10:00～16:00
場所・内容	<p>開催場所：青森県青森市周辺            内容：講演会・講習会・見学会</p> <p>◆午前：現場見学 … 劣化現場見学(10:15～12:30)</p> <p>青森市久栗坂付近            青森県道 根井川橋(凍害・床版の劣化?他)            青い森鉄道 根井川橋梁(凍害・磨耗?)            青森市水道部 根井川水道橋(アル骨?)</p> <p>青森市野内付近            青い森鉄道 野内川橋梁(凍害・アル骨?)</p> <p>◆午後：講演会 … ねぶたの家「ワ・ラッセ」(13:30～16:00)</p> <p>(1) 開会の挨拶 東北大学 大学院工学研究科 教授 久田 真            (2) 「青森県の橋梁アセットマネジメントについて」            青森県 県土整備部 道路課 主幹 城前 俊浩            (3) 「震災後の構造物の維持管理について」            東北大学 大学院工学研究科 教授 久田 真            (4) 「劣化現場の解説」            八戸工業大学 土木・建築工学科 准教授 阿波 稔            (5) 質疑応答            (6) 終了・解散</p>
参加者	<p>受講者25名            青森13名、岩手4名、秋田1名、山形1名、宮城5名、福島1名</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木学会 CPD 登録(CPD受講証明書発行)</li> <li>・講演要旨集を作成(印刷)、配布</li> </ul>



根井川橋見学



講演会

#### (4) 講習会運営委員会

##### 1) 講習会・試験

講習会・試験の事務運営は、コンクリート診断士試験については JCI 支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い、コンクリート技士試験は生コン工業組合主体で実施した。

##### 平成 23 年度 講習会試験実施 (JCI 東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート 診断士講習会	4月27日(水) 4月28日(木)	山形国際交流プラザ 山形ビックウイング	統括：石川雅美	JCI 東北支部・ 生コン工組共同運営
コンクリート 診断士試験	7月24日(日)	岩手大学	統括：石川雅美	責任者：田中雄一 補佐：真山芳恵

##### 平成 23 年度 講習会試験実施 (JCI 本部管轄)

コンクリート 技士試験・コン クリート 主任技士試験	11月27日(日)	東北学院大学	統括：石川雅美 副統括：西脇智哉	生コン工組運営 責任者：田中雄一 補佐：真山芳恵
-------------------------------------	-----------	--------	---------------------	--------------------------------

\* コンクリート技士試験 〃 申込者:916名, 受験者:755名

\*\* コンクリート主任技士試験 〃 申込者:358名, 受験者:314名

##### 2)月刊誌「コンクリート工学」への執筆推薦

以下の執筆者推薦を行った。

##### ・「技士のページ」4名

- 佐藤 理恵 (多賀城カイハツ生コン株式会社 試験課試験係員)
- 大友鉄平 (東北学院大学工学部ポストドクター)
- 高橋正夫 (仙台生コンクリート株式会社 取締役工場長)
- 岡本靖嘉 (青森太平洋生コン株式会社 蟹田工場長)

##### ・「診断士のページ」4名

- 鈴木 宏武 (株式会社吉田レミコン 仙台工場 工場長)
- 諸橋 克敏 ((株)ピーエス三菱 東北支店土木営業部開発技術部長)
- 原子一磨 (株式会社増川プロジェクト技建 事業部長)
- 平川 明 (新構造技術株式会社 東北支店)

##### ・「我が職場」2名

- 吉田修栄 (吉田セメント工業株式会社)
- 大山浩一 (三菱マテリアル株式会社 セメント研究所 仙台分室 主任研究員)

#### (5) ホームページ運用委員会

6月と12月の年2回定期的に HP 全体のチェックを行うとともに、適宜最新の情報をホームページにアップロードしている。

URL : [http://www.jci-net.or.jp/~branchi\\_tohoku/index.html](http://www.jci-net.or.jp/~branchi_tohoku/index.html)



JCI東北支部 平成23年度 収支決算報告書  
(自平成23年4月1日 ~ 至平成24年3月31日)

(1) 収入の部

(円)

項目	予算額(A)	決算額(B)	増減(A-B)	摘要
H22年度からの繰越金	2,286,053	2,286,053	0	
交付金	1,510,520	1,524,560	-14,040	基本額1,000,000円 正会員447人×480円 団体会員19社×15,000円 新規団体1社×25,000円
雑収入1	120,000	51,600	68,400	コンクリート診断士講習会業務援助
雑収入2	0	3,390	-3,390	ひび割れ講習会テキスト販売
利子	1,000	387	613	
合計	3,917,573	(ア) 3,865,990	51,583	

(2) 支出の部

(円)

大科目	中科目	予算額(A)	決算額(B)	増減(A-B)	摘要
事務費	人件費	1,000,000	1,000,000	0	事務局業務委託
	通信費	5,000	0	5,000	
	慶弔見舞い金	0	0	0	
	雑費	5,000	33,644	-28,644	振込み代他3,530円, 印章代30,114円
	小計	1,010,000	1,033,644	-23,644	
会議費	会議費	100,000	103,120	-3,120	
	旅費	350,000	219,100	130,900	
	審査表彰委員会	100,000	0	100,000	
	研修委員会	300,000	120,725	179,275	診断士勉強会支出:213,725円 診断士勉強会収入:93,000円
	小計	850,000	442,945	407,055	
行事費	総会費	400,000	455,063	-55,063	総会支出:536,063円 会費収入:81,000円
	表彰	150,000	74,519	75,481	
	講演会費	0	0	0	
	専門研究委員会	400,000	113,900	286,100	二種専門委員会×2
	講習会運営委員会	100,000	0	100,000	
	東日本大震災調査	1,000,000	1,000,000	0	
	小計	2,050,000	1,643,482	406,518	
予備費		7,573		7,573	
合計		3,917,573	(イ) 3,120,071	797,502	

(3) 決算の部

(円)

項目	金額(円)	摘要
収入	3,865,990	(ア) 収入合計
支出	3,120,071	(イ) 支出合計
平成24年度への繰越金	745,919	

【会計監査報告】

平成24年4月25日 監査を致しました結果、その収支は厳正かつ妥当であると認めます。

会計監査

伊神 光男  
松川 欣司



第2号議案 平成24年度 日本コンクリート工学会東北支部事業計画(案)  
(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

1. 会務運営

(1) 総会

- ・平成24年5月8日 15:00~19:30 於: 仙台国際ホテル

(2) 支部幹事会

- ・平成24年4月12日 17:00~18:30 於: (株) 復建技術コンサルタント
- ・他3回開催予定

(3) 支部役員会

- ・3回開催予定

(4) 研究委員会

- ・随時電子会議により開催

(5) 表彰委員会

- ・随時電子会議により開催

(6) 講習会運営委員会

- ・随時電子会議により開催

(7) 研修委員会

- ・随時電子会議により開催

(8) ホームページ運用委員会

- ・随時電子会議により開催

2. コンクリートに関する調査・研究

(1) 研究委員会

会告およびホームページにおいて、研究課題を公募する。

(2) 表彰委員会

日本コンクリート工学会東北支部表彰規約(内規)に基づき、論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。

(3) 研修委員会

第8回『コンクリート診断士の技術研鑽のための勉強会』の開催を検討する。

- ・ワーキンググループの開催

未定

- ・第8回勉強会の開催

(候補案) 開催月: 10月頃

場 所: 秋田県 秋田市

内 容: 未定

#### (4) 講習会運営委員会

講習会・試験の事務運営は、コンクリート診断士試験については JCI 支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い、コンクリート技士関連は生コン工業組合にお願いする。また、月刊誌「コンクリート工学」への執筆推薦に協力する。

平成 24 年度 講習会試験実施予定 (JCI 東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート 診断士講習会	4月12日(木) 4月13日(金)	仙台国際センター	統括：石川雅美	JCI 東北支部・ 生コン工組共同運営
コンクリート 診断士試験	7月22日(日)	東北工業大学	統括：石川雅美	責任者：田中雄一 補佐：真山芳恵

平成 24 年度 講習会試験実施予定 (JCI 本部管轄)

コンクリート 技士試験・コン クリート 主任技士試験	11月25日(日)	東北学院大学	統括：西脇智哉 副統括：北辻政文	生コン工組運営 責任者：田中雄一 補佐：真山芳恵
-------------------------------------	-----------	--------	---------------------	--------------------------------

#### (5) ホームページ運用委員会

会員・非会員向けの支部活動の情報を発信するため、講習会・各種試験・勉強会などの情報について随時ホームページに掲載を行う。各研究委員会と連携し、研究委員会ごとのHPにおいて情報発信を行う。情報が古いままとならないように、6月と12月に重点的にホームページの更新を行うものとする。

### 3. 平成24年度 収支予算（案）

（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

#### (1) 収入の部

項目	予算額	昨年度予算	昨年度決算	予算増減	
繰越金	745,919	2,286,053	2,286,053	-1,540,134	
交付金	1,500,000	1,510,520	1,524,560	-10,520	
雑収入1	120,000	120,000	51,600	0	コンクリート診断士講習会謝金
利子	200	1,000	387	-800	
合計	2,366,119	3,917,573	3,862,600	-1,551,454	

#### (2) 支出の部

大科目	中科目	予算額	昨年度予算	昨年度決算	予算増減	摘要
事務費	人件費	500,000	1,000,000	1,000,000	-500,000	事務局業務委託
	通信費	5,000	5,000	0	0	支部長選挙等
	慶弔見舞金	0	0	0	0	
	雑費	5,000	5,000	33,644	0	振込み代等
	小計	510,000	1,010,000	1,033,644	-500,000	
会議費	会議費	100,000	100,000	103,120	0	
	旅費	300,000	350,000	219,100	-50,000	
	審査表彰委員会	100,000	100,000	0	0	
	研修委員会	300,000	300,000	120,725	0	
	小計	800,000	850,000	442,945	-50,000	
行事費	総会費	400,000	400,000	455,063	0	
	表彰	100,000	150,000	74,519	-50,000	
	講演会費	200,000	0	0	200,000	H22年度と同額
	専門研究委員会	200,000	400,000	113,900	-200,000	新規募集委員会×1
	講習会運営委員会	100,000	100,000	0	0	
	東日本大震災調査	0	1,000,000	1,000,000	-1,000,000	H23年度のみ
	小計	1,000,000	2,050,000	1,643,482	-1,050,000	
予備費	56,119	7,573	742,529	48,546		
合計	2,366,119	3,917,573	3,862,600	-1,551,454		

平成 23・24 年度 J C I 東北支部 幹事会・役員会 名簿

氏名	勤務先
<b>支部長</b>	
加賀谷 誠	秋田大学大学院工学資源学研究所 土木環境工学専攻 教授
<b>幹事長</b>	
遠藤 孝夫	東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授
<b>幹事</b>	
石川 雅美	東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授
岩城 一郎	日本大学 工学部 土木工学科 教授
大沼 正昭	東北工業大学 工学部 建築学科 教授
川嶋 直樹	国土交通省東北地方整備局 企画部長
月永 洋一	八戸工業大学工学部土木建築工学科 教授
奈良 裕	青森県コンクリート診断士会
久田 真	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授
細川 清志	宮城県生コンクリート工業組合
万木 正弘	弘前大学 農学生命科学部 地域環境工学科 非常勤講師
<b>常任委員</b>	
阿波 稔	八戸工業大学 工学部 土木建築工学科 准教授
磯上 秀一	福島県生コンクリート工業組合
市川 成勝	オリエンタル白石(株)東北支店 施工・技術部
入江 正樹	清水建設(株) 東北支店 土木技術部
宇賀神 尊信	岩手県生コンクリート工業組合
交 阿部 浩彰	鹿島建設(株) 東北支店
遠藤 敏雄	(株)復建技術コンサルタント
北辻 政文	宮城大学食産業学部環境システム学科 教授
小出 英夫	東北工業大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授
澤田 貞悦	J R 東日本コンサルタンツ(株)東北支店
高橋 学	東北電力(株)土木建築部
武田 三弘	東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授
山田 金喜	東日本高速道路株式会社 東北支社 技術部
西脇 智哉	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 准教授
橋本 幸一	秋田県生コンクリート工業組合技術研修センター
羽原 俊祐	岩手大学 工学部 社会環境工学科 教授
前田 匡樹	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 教授
松村 光太郎	宮城学院女子大学 学芸学部 生活文化デザイン学科 准教授
三上 重道	青森県生コンクリート工業組合
緑川 猛彦	福島工業高等専門学校 建設環境工学科 教授
折原 清告	山形県生コンクリート工業組合
<b>会計監査</b>	
伊神 光男	太平洋セメント(株)東北支店
交 松川 欣司	BASF ポゾリス株式会社
<b>本部理事</b>	
月永 洋一	八戸工業大学工学部土木建築工学科 教授
<b>顧問</b>	
井上 範夫	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 教授
大塚 浩司	東北学院大学 (学校法人東北学院 理事)
鈴木 基行	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授
田中 礼治	東北工業大学
三浦 尚	東北大学名誉教授
三橋 博三	東北工業大学
<b>事務局</b>	
有馬 久伸	(株)復建技術コンサルタント 北東北事業部
鈴木 勝浩	(株)復建技術コンサルタント 構造技術部
金 貴之	(株)復建技術コンサルタント 総務人事部

※：役割変更 新：新役員 交：前任者より交代

平成 23・24 年度 J C I 東北支部 専門委員会 名簿

平成23年 6月 1日より

専門委員会	研究委員会	研修委員会	表彰委員会
委員長	石川 雅美	久田 真	万木 正弘
副委員長		奈良 裕	前田 匡樹
委員	阿波 稔	細川 清志	奈良 裕
	松村 光太郎	宇賀神 尊信	佐々木 徹
		磯上 秀一	有馬 久伸
		橋本 幸一	岩城 一郎
		折原 清告	入江 正樹
		入江 正樹	西脇 智哉
		伊神 光男	羽原 俊祐
		阿波 稔	緑川 猛彦

専門委員会	講習会運営委員会	HP運用委員会	
委員長	交 小出 英夫	岩城 一郎	
副委員長	細川 清志		
委員	有馬 久伸	有馬 久伸	
	北辻 政文	金 貴之	
	石川 雅美	皆川 浩	
	松村 光太郎	内藤 英樹	
	武田 三弘		

「東北地方におけるコンクリート構造物の劣化予測と LCC 評価」に関する講習会

—参加募集—

開催日：2012年6月28日（木）

主催：公益社団法人 日本コンクリート工学会 東北支部

近年、コンクリート構造物の長寿命化に関する取り組みが盛んに行われています。その代表的なものが、各自治体で検討が進められている橋梁長寿命化修繕計画の策定です。その趣旨は、高度経済成長期に建設された橋梁の一斉老朽化時代に備え、橋梁あるいは橋梁群の将来の変状予測とコスト評価により適切な維持管理を行い、ライフサイクルコストの最小化と予算の平準化を図るというものです。しかしながら、その運用には数多くの問題が存在します。それは、コスト評価の前提となる橋梁の劣化予測手法や対策工の選定に根拠が伴わない、あるいは、自治体の予算をはるかに超えた試算結果が提示されるなどです。これらの問題の根底にはコンクリート工学や構造工学に立脚せず、単にブラックボックス化したソフトの中で機械的にコスト算出を行い、その結果を鵜呑みにし、提示していることが挙げられます。こうした結果を自治体側が受け入れて対策費用を予算化すると、良かれと思って導入した橋梁長寿命化修繕計画がむしろ自治体の財政を圧迫する要因となりかねません。

このような背景から、(社)日本コンクリート工学会東北支部では、「コンクリート構造物の LCC 評価研究委員会」(委員長：岩城一郎・日本大学教授)を発足させ、東北地方に所属する研究者、技術者、管理者が LCC 評価の問題点に対して一石を投じる思いで平成 20 年 10 月から 3 年半の長きにわたり精力的な活動を展開してきました。活動の基本は、コンクリート工学や構造工学に立脚したコンクリート構造物の劣化予測と適切な対策の選定といった工学的根拠に基づく LCC 評価手法の構築およびそれを用いた LCC 評価です。

このたび、これらの活動成果に関して、下記の要領で講習会を開催することになりました。本講習会を通じて、我が国のコンクリート構造物の劣化予測やコスト評価における現状と課題をできるだけ多くの方にご理解いただき、我が国独自の LCC 評価やアセットマネジメント手法の確立につながれば幸いです。皆様方からの積極的なご参加をお待ち申し上げます。

主催：

日本コンクリート工学会 東北支部

後援：

国土交通省東北地方整備局

宮城県

(社)東北建設協会

建設コンサルタンツ協会 東北支部

(社)宮城県測量設計業協会

(一社)東北測量設計協会

プレストレスト・コンクリート建設業協会 東北支部

日本橋梁建設協会 東北事務所

宮城県生コンクリート工業組合

土木学会 東北支部

日本建築学会 東北支部

<次頁につづく>

「東北地方におけるコンクリート構造物の劣化予測と LCC 評価」に関する講習会 開催要項

1. 開催日時：平成 24 年 6 月 28 日（木）13:00～17:00
2. 開催場所：宮城県庁講堂（仙台市青葉区本町 3-8-1, 庁舎内 2F）
3. プログラム（予定）：

13:00～13:10	開会挨拶	
13:10～13:20	趣旨説明	岩城一郎（日本大学）
13:20～14:20	特別講演	岸 利治（東京大学）
	「インフラの経済的長寿命化に向けた包括的予防保全統合システム構築の取組み」	
14:20～14:50	コンクリート構造物の劣化予測と LCC 評価に関する現状	皆川 浩（東北大学）
14:50～15:20	塩害を受けた PC 道路橋の劣化予測と LCC 評価	皆川 浩（東北大学）
15:20～15:35	<休憩>	
15:35～16:05	凍害を受けたコンクリート構造物の劣化予測と LCC 評価	阿波 稔（八戸工業大学）
16:05～16:35	凍結防止剤の影響を受ける RC 床版の劣化予測と LCC 評価	上原子晶久（弘前大学）
16:35～16:55	RC 造建築物を対象とした LCC 評価とその留意点	西脇智哉（東北大学）
16:55～17:00	閉会挨拶	
4. 参加費および申し込み方法
  - (1) 参加費 テキスト代（定価 3000 円）を当日受付でお支払いください。
  - (2) 申込方法 委員会ホームページ（[http://www.jci-net.or.jp/~branchi\\_tohoku/research/lcc/home.htm](http://www.jci-net.or.jp/~branchi_tohoku/research/lcc/home.htm)）に掲載してある「参加申込書」をダウンロードし、所定事項を明記の上、下記の申込先まで FAX または E-mail にてお申し込みください。
  - (3) 申込先 東北大学大学院工学研究科土木工学専攻 建設材料学研究室  
FAX：022-795-7429, E-mail：jci@cm.civil.tohoku.ac.jp
  - (3) 申込締切 定員（250 名）に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。
  - (4) 備考 本講習会は宮城県に引き続き、東北各県で実施する予定です。また、テキストのみの販売もいたします。詳細は前掲の委員会ホームページをご参照ください。

<以上>